

法律学科 / Department of Law

法律を土台として、自分で考える力を獲得するために
幅広い教養やコミュニケーション力も修得する。

人権感覚や国際的素養を基礎に、社会問題を「自分の頭で」考える力こそ法律家に求められる重要な要素です。
法律科目に加えて、歴史や哲学などの幅広い教養やコミュニケーション力、語学力などを修得し、
人と社会への理解を深めていきます。

学びの特色

法律科目だけでなく歴史や哲学など
幅広い教養を修得

憲法・民法・刑法などの法律科目に加えて、一般教養や語学力の修得、ディスカッションやプレゼンテーションで培われるコミュニケーション能力の向上などを重視。人と社会を理解し、紛争の解決だけでなく、ビジネスや公務など幅広いフィールドで生きる力を身につけます。

「LAW & LAW」の教育
学部を3年で修了し法科大学院をめざす

学部を4年で修了し、その後法科大学院へと進学するのが一般的な法曹への道となりますが、2019年度より期間を短縮し、最短期6年間で法曹資格取得をめざす制度を開始しました。いち早く法曹の道へ進み、社会で経験を積み重ねることが可能となります。

活躍をめざすフィールド

- 金融／メーカー／マスコミ等の幅広い一般企業
- 企業の法務部門
- ロースクールを経て法曹へ(弁護士・検事など)
- 公務員

コース紹介

▲ 法曹コース

裁判官・検察官・弁護士などの法曹をめざす学生を主な対象としたコースです。憲法、民法、刑法など、「七法」と呼ばれる基本法律科目について深く学ぶことができます。

▲ 公共法務コース

公務員や各種機関の職員として公共政策に関わるための知識を中心に学びます。法律科目のほかに経済分野や政治分野の科目を通して、幅広い知識を培います。

▲ 企業コース

知的財産法や環境法などを含む先端法律科目や外国法など、ビジネスの世界で活用できる知識を中心として学びます。一般企業など幅広い分野で活躍できる人材をめざします。

法律家をはじめ同じ目標を持つ仲間が存在が

自分自身にとって大きな支えになります

STUDENT'S VOICE

法律学科には同じ目標を持つ仲間がたくさんいるので、授業の履修の相談や資格試験の悩み事、そして日々の悩み事まで相談する相手に困りません。頼れる仲間の存在は自分自身の支えになります。判例や基本書には法律専門用語が多く、初めは文章読解に苦労しましたが、学び進むうちに読解スピードを上げることができました。卒業後は東京大学ロースクールに進学しつつ、令和6年度(2024年)の司法試験合格に向けて勉強を続けていきます。現時点での将来の目標は、まずは司法試験に合格すること、そして企業法務を取り扱う弁護士になることです。

4年 登坂 玲央

茗溪学園高等学校(茨城県)出身

進学先 東京大学法科大学院

2023年度 司法試験予備試験合格

PICK UP

法律実務家の体験を交えた講義や模擬裁判など、
実践的な授業を展開

「法曹論」では、法律実務家の体験談を通じて、法律家の仕事の具体的なイメージを高め、法律家が社会で果たす役割について理解を深めます。授業では、キャンパス内に模擬法廷を構築し、現職の法曹による模擬裁判を実施しています。



学びの特色

「法学入門」などを通して、社会における法律の役割や価値を学びながら、法律に関する基礎的な知識を固めていきます。2年次より3つのコースに分かれて、将来の目標や一人ひとりの関心に合わせた学びを展開。1年次から培うキャリア意識と合わせて、卒業後のキャリアを見据えながらより高度な知識・知恵を涵養します。

1年次

学科共通の科目を学修し、
自らの学問的興味・関心や、
キャリアデザインについて考える

科目例

- 「導入演習」
少人数のゼミで大学学修の基本と技法を学ぶ
- 「法解釈演習」
法的思考の仕方を具体的に学ぶ
- 「法学入門」
法の意義や役割について考える
- 「民法概論・総則A」
人と人との法律関係—私法の学びの出発点
- 「犯罪と刑罰」
刑事法を支える基本的な考え方を学ぶ
- 「法曹論」
専任教員および現職の法曹三者（弁護士、検察官、裁判官）が担当する
- 「法曹演習」
現役の法曹（弁護士、検察官、裁判官）によるゼミ
現実の法曹の世界を知る

2年次

コース科目の
学修が
スタート

法曹コース*

公共法務コース

企業コース

2年次より将来の進路にあわせ「法曹」「公共法務」「企業」のなかから1コースを選択。どのコースで学ぶかは、入学後1年間じっくり時間をかけて考え、2年次から各コースでの学修がスタートします。

- 「債権各論」
各種の契約や不法行為などに関するルールを学ぶ
- 「憲法2（統治）」
統治（政治制度）に関する基本問題を考える
- 「企業法総論」
さまざまな企業活動の基礎となる概念を検討する
- 「実定法基礎演習」
基本書を読み、具体的な事例を検討することで、憲法・民法・刑法などの基礎力を向上させるための少人数ゼミ
- 「基礎演習」
少人数のゼミで法・政治・文化・歴史などの基礎を学ぶ

※法曹コースには「一貫教育プログラム」があります。学部での成績など必要な基準を満たした場合に、3年間で学部を卒業し、入試に合格した法科大学院の既修者コースに進学することができます。

3・4年次

「七法」と呼ばれる憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法を中心に関連法分野を学びます。

基本的な法律科目である憲法、民法、刑法、行政法などに加え、行政学、財政学などの経済系や政治系の分野について学びます。

主にビジネスの世界で重要となる民法、会社法、労働法、環境法、知的財産法や、必要性が高まっている外国法などを中心に学びます。

- 「民事訴訟法」
民事紛争解決のためのルールを学ぶ
- 「労働法（個別的労働法）」
雇用契約における労働者の権利を学ぶ
- 「実定法特講」
判例を精読することにより、具体的な事実に即した法律の解釈を学ぶ
- 「法曹特講」
弁護士より実践的な観点からの指導を受けることで、争点の抽出、分析、論文作成能力の向上を図る
- 「地方自治法」
地方自治の基本原則と地域的統治の手法を具体的に把握する
- 「行政救済法」
国民の権利利益の保護と行政活動の是正のための法制度を学ぶ
- 「知的財産法」
著作権法・特許法・商標法を中心に、知的財産法制度について概観する
- 「環境法」
環境問題解決のための原則や法制度を学ぶ
- 「犯罪学」
犯罪の原因と発生のメカニズムを学ぶ
- 「専門演習」
少人数のゼミで専門学修を行う

卒業後の進路

法曹（法科大学院）

公務員

民間企業

中央大学法学部生としての誇りと自信を胸に 4年間の学びを将来へつなげていきたいです

法学への関心が芽生えたのは中学時代、本学の法科大学院を見学したのがきっかけでした。法律の条文や事例をもとに学生自ら考える授業の中で、一つの条文に十人十色の解釈があることを面白く感じたのです。その体験から法律学科へ進学、日々の講義を通して身につく法知識により、普段目にするニュースの理解度が上がりました。民事訴訟法を学んでいる時に、そこに該当する事件が起こるなど、学びと実社会がリンクするところが法学の意義深いところであり、日常のいたるところに「法が在る」ことを再認識することができます。卒業後は損害保険会社へ就職しますが、法学部での学びは仕事でも役立つと思います。

4年 岐部 晴香 | 中央大学附属高等学校（東京都）出身

内定先 東京海上日動火災保険株式会社



法律の知識を「盾」として 人助けができる弁護士になりたいです

法の達人から学問を教わることができる点が法律学科の魅力です。各分野のエキスパートである教授陣や法曹実務家から直接指導をしていただくことができます。達人のもとで、学問の奥深さや面白さを学び、自分のものにできれば、とても有意義な4年間になるでしょう。人は自分が思う以上に周囲の影響を受けます。法律家を目指す友人が多くいる環境下に身を置かなければ、私自身、勉強のモチベーションを保ててはいなかったと思います。法律や法曹界に関心がある方は、ぜひ中央大学法学部で切磋琢磨してください。卒業後は東京大学法科大学院へ進みます。目標は弁護士、法律の知識を「盾」に、人助けできるよう努めてまいります。

4年 荒木 慎太郎 | 県立熊本高等学校（熊本県）出身

進路先 東京大学法科大学院

